



**A** 右の土間サロンから真ん中のダイニングキッチン、そして左のリビングへと流れるようにゆとりある空間がつながる。オフをゆったり過ごせる落ち着きも、ゲストを招いてのパーティにも相応しい気品がある。  
**B** シンプルな切妻造りながら、木部がアクセントになり、風格を感じさせる外観。 **C** 屋根付きのテラスで趣味の自転車のメンテナンスをするご主人。複数台の自転車を置いているが、この家の土間サロンとテラスの広さがあればストレスはない。 **D** 土間サロン西側の扉の先はガレージに至る。お出かけのとき、また買い物帰りに重宝している。



“好き”を心のままに楽しむ



OFF-TIME

A

「建てるなら贅を極めた家にした  
い、それができなかったら賃貸  
でいいと思っていました」  
自ら事業を起こしたWさんと  
とって、住まいとはその事業が  
成功した証、自分たちががんば  
った証でもありました。お客様  
や社員や地域から評価され、自  
分でも納得できる成果が収めら  
れたら、それに見合う家をつく  
ろう。そう考えていました。  
だから、ある日工房信州の家  
の松本展示場に立ち寄ったのも、  
まさに「ふらりと」偶然でしたし、  
成功の証である家は、高級ホテ  
ルのような豪華さのある家であ  
るべきだと、実のところ思っ  
ていたのです。  
「はつきり言って求めていた家の  
雰囲気とは違いました。でもそ  
こにいます、この家を使ってい  
る自分たちを想像できたんです」  
以後、他の展示場を訪れ宿泊体  
験もするうち、松本展示場で感  
じたことが確かな思いになっ  
ていきます。そして、長野市の古  
牧展示場と出合いました。「これ  
と同じ家がそのまま建つなら、  
建ててもいいかな」。営業担当に  
そう伝え、同展示場のコンセプ  
トを採り入れてできたのがこの  
家です。

この家ができたのは2023  
年の春でした。けれどご主人は  
このタイミングで家を建てるつ  
もりはなかったと言います。

工房信州の家の  
モデルハウスでは  
使う自分を想像できた

No. **05**  
Example Report.

Builder:  
**工房信州の家**  
(フォレストコーポレーション)

Note:  
松本市/W邸  
家族構成/2人



豊かさをもたらす  
ゆとりをつくりこむ  
スタッフのチームワーク

家の南に芝生の庭があり、北へ向かって順に土間サロン、ダイニングキッチン、リビングとつながります。どれもたっぷりとスペースを確保し、互いを仕切る壁は最小限。段差も同居する3匹の小型犬が軽やかに越えていける程よい高さです。内と外が伸びやかに連なるこの広が

りこそW邸第一の魅力でしょう。広さとはゆとりであり、ゆとりとは豊かさです。愛犬たちが家の内外をうれしそうに走り回るのを見たら分かります。以前展示場で思い描いたように、奥様はコーヒーカップを手に彼らのはしゃぐ声に微笑み、ご主人は土間サロンやテラスで趣味の自転車のメンテナンスに熱中します。ゆとりがあればこそ、自分の「好き」を心のままに楽しめるのです。

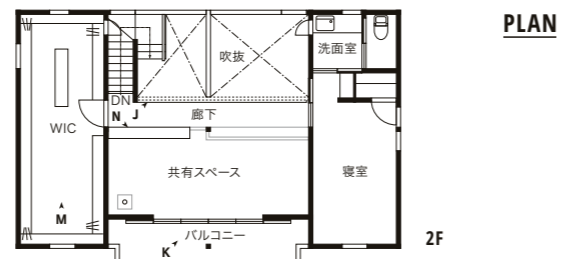
ただ、ゆとりと豊かさを生んでいるものが、広さや間取り、使用した素材、薪ストーブのくつろぎ以外にもあることをご主人は見抜いていました。「たとえば目透かし天井の仕上げなど、細かなこだわりの積み重ねが空間の質感を上げているんですね。立场上、私は他人の仕事もついでに経営者目線で見てしまいますが、家づくりに関わるすべてのスタッフがそういう小さな努力を重ねながら、連携も取っている、フォレストさんのチーム力に感心しました」。工房信州の家でよかったです、今、W夫妻は住まいづくりを振り返っています。



E\_土間サロンとダイニングの間の開口も大きく、空間に一体感をもたせながら、天井の材質を変えて変化をつけた。 F\_キッチンは展示場で見たくキューブ型を採用。夫婦であるいは友人を呼んで一緒に料理を楽しめる。壁に石を施したのはご主人のアイデア。無垢の木と珪藻土で構成された空間を引き締めつつ、重厚感が出た。 G\_リビング側からダイニング、そして土間サロン、さらに庭を望む。視線の抜けが良く、空間がより広く優雅に感じられる。 H\_テレビボードを兼ねた収納棚が、ダイニング側からリビングへの視線を絶妙に遮る。 I\_薪ストーブは最初、手間がかかると考えていた。それが「あってもいいかな」になり、「あった方がいい！」に変わった。



N\_2階の廊下の棚には、思い入れのあるラジコンカーなどをディスプレイした。 O\_大好きなドラマをここで鑑賞するなど、リビングのソファで過ごす時間が奥様のお気に入り。

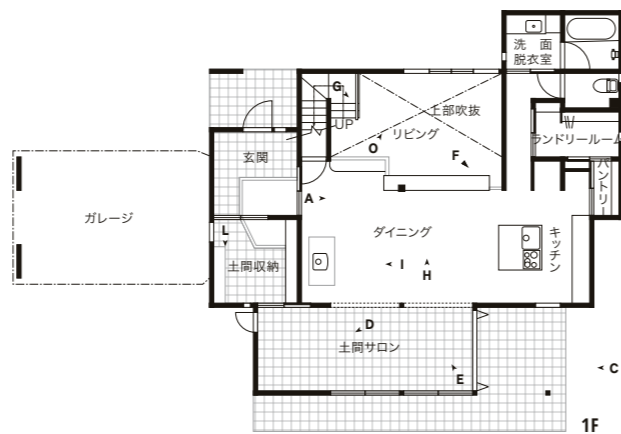


PLAN

**DATA**

敷地面積	582.78㎡ (175.94坪)
延床面積	187.50㎡ (56.61坪)
1F面積	112.22㎡ (33.88坪)
2F面積	75.28㎡ (22.73坪)

工法/木造在来軸組工法 基礎/ベタ基礎 構造材/柱・梁:スギ・ヒノキ、土台:ヒノキ 断熱材/天井:押出法ポリスチレンフォーム100mm、壁:ビーズ法ポリスチレンフォーム100mm、床:押出法ポリスチレンフォーム75mm  
 主な外装仕上げ/屋根:ガルバリウム鋼板、外壁:窯業系サイディング・一部スギ板張り 主な内装仕上げ/天井・壁:珪藻土入り石膏プラスター・一部板張り(スギ・カラマツ)、床:アカマツ無垢材・一部タイル張り 開口部/アルミ樹脂製Low-e複層ガラス(アルゴンガス入り) キッチン/TOYO KITCHEN キッチン熱源/IHクッキングヒーター バスルーム/TOTO 暖房の種類/薪ストーブ・エアコン



J\_吹き抜けで縦方向の広がりや採光を確保しながら、少し籠もる空間構成によって安心感も得られるリビング。 K\_2階の共有スペース。奥様がヨガをしたり、ご主人が筋トレをしたりする。ペランダからはアルプスの山並みや薄川の花火が見える。 L\_玄関から土間収納を介し土間サロンへと抜ける便利な動線。スニーカーの収集もご主人の趣味で、土間収納には靴がたっぷり収まる棚をつかった。 M\_2階の廊下を挟んで寝室と反対側に大容量のウォークイン・クローゼットを備えた。こちらにもお気に入りのコレクションがずらり。



Owner:  
Wさんご家族

**Q1. 家づくりで一番大切にされたことは?**

A\_とにかく広く。オフには仕事のことを忘れ、好きなことに熱中するなどゆったりした時間を過ごせること。

**Q2. こうしておいてよかった、と思ったことは?**

A\_ウォークイン・クローゼットや土間収納をたっぷり取ったこと。風呂は黒を基調に落ち着いた空間にしたこと。

**Q3. このビルダーさんに頼んでよかったことは?**

A\_スタッフの連携の良さと、顧客のためできる限りの努力をする姿勢。対応が早いこと。



Builder:  
担当/西川恵理也さん

**Q1. この家のコンセプト、ポイントは?**

A\_リビングとダイニングと土間の面積を広くし、ゆとりをもたせること。良い素材を厳選し、ぜいたくに使うこと。

**Q2. この家の見どころを3つに絞るなら。**

A\_土間サロンからダイニングキッチン、リビングへのつながり。ガレージ付きの外観。玄関と土間の動線。

**Q3. 家づくりで一番大切にしていることは?**

A\_お客様とともに大切なことを見つけていく姿勢と、お客様の想像を超える提案を心がけています。

